



★今月号のラインナップ

1. [ひろば](#)

「語と黙」、「不易と流行」のバランス

総合教育センター所長 三村 保

2. [特集](#)

○市町村（組合）教育委員会事務局職員研修会を開催しました

教育総務課

○「全国学力・学習状況調査」に関する長野県の分析結果及び
それを受けての取り組みについて

教学指導課

3. [今、学校では](#)

○— 山を守りたい、地域を守りたい、森林活用の新しい方向性を探りたい —
「里山再生プロジェクト7年間の歩み」

長野県小海高等学校

○「上野の森の小さな芸術家たち展」について

長野県若槻養護学校

4. [イベント情報・お知らせ](#)

5. [あとがき](#)

「語と黙」、**「不易と流行」のバランス**

総合教育センター所長 三村 保

1. 臼井吉見の「安曇野」には実に多くの教育者が登場し、悩み、語り、子どもと一緒に燃える。信州教員の歩みが記録された歴史書でもあると思う。

臼井少年の学び舎（堀金小学校）の月曜日の朝礼で、佐藤校長は、来る日も来る日も繰り返し話した。壇上で山を指さし「常念を見ろ！」「常念を見ろ！今日は晴れていてご機嫌がいい。」「常念を見ろ！今朝の雪は素晴らしい。」と。山なんか寒い風を送るだけでいやだと思っていた少年は感動しながら、いつとはなしに精神の世界を形成していったという。校長は長い話はなさらず、大体常念の話をした。説き尽くさなくても、子どもたちには真実なものが感じられた。「語と黙」。黙して語る佐藤校長に学ぶところがたくさんある。



2. 先日、当所の校長研修で、私は自分のささやかな行政経験から「一寸先には必ず光が見えるから、校長職、頑張ってほしい。」旨挨拶した。その日ある校長から「所長はざっくばらんに話してくれた。教育関係者の話はどうしても前置きが何かにとらわれている。」との感想が寄せられた。「前置きが何かにとらわれている。」の何かとは？長く携わるほど、教育の不易やお作法を確固不動のものと思いこんでしまうのかもしれない。私の話は少し新鮮だったようだ。不易と流行は対立させず、お互いを取り入れ、高い段階に進みたい。

3. ここからの北アルプスの一望は絶景だ。特に冬晴れの今、常念は中央にきっぱりと座る。いい姿だ。ピラミッド型の美しい峰と、南北にバランスのとれた稜線がいい。この頃その常念を仰ぎながら、「語と黙」も「教育の不易と流行」もそのバランスこそが大事だと考えている。

特集

市町村（組合）教育委員会事務局職員研修会を開催しました 教育総務課

平成 26 年 2 月 4 日（火）に、県安曇野庁舎で研修会を開催したところ、49 教育委員会 63 名の方にご出席いただきました。

研修会で、県教育委員会の伊藤教育長が行った基調講演の概要をお知らせします。

- 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正法案がこの通常国会に提出され、早ければ平成 27 年度から新しい制度が始まる見込み。
- 教育委員会制度は、戦後 GHQ の指示により昭和 23 年度に日本に導入され、昭和 31 年から首長が議会の同意を得て教育委員を任命するという現行の教育委員会制度になった。
- 昨今、教育委員会制度の見直しが叫ばれているが、30 年前から同じことが繰り返言われている。昭和 61 年に、中曽根政権の臨時教育審議会の第 2 次答申で、教育委員会制度の抜本的な見直しが必要だという提言があった。
- 平成 12 年以前の教育長の任命承認制度があった頃は、教育行政は国、都道府県、市町村、学校というタテ系列で物事が決められ、市町村長や議長は、教育行政に対して不満があっても諦めざるを得なかった。ところが、平成 12 年に教育長の任命承認制度が廃止されたことにより、市町村長や議長が教育委員会に対して自分の意見を言えるようになった。それにもかかわらず、他の分野と違って教育の世界は、なかなか市町村長や議長の思うようには動かなかった。制度が変わったのに教育行政が思うように動かないのは、教育委員会制度が悪いに違いないというような流れになった。首長と教育委員会の意思疎通がうまくいき、魅力ある新しい教育施策を打ち出している自治体があることからわかるように、制度の問題ではなく運用の問題なのだが、なんとなく制度のせいにしてしまうといった風潮になった。
- 6～7 年前の児童のいじめ自殺事件をきっかけとして、教育委員会制度の見直しが叫ばれるようになった。当時の安倍政権は、平成 19 年に教育再生会議を立ち上げ、教育委員会制度を大きく見直すという方向を打ち出した。しかし、教育委員の数を弾力化したり、首長と教育長の所掌範囲を見直したりすることにとどまり、教育委員会制度の廃止等を含めた抜本的な改革には踏み込めなかった。
- それから 6 年が経過して、第 2 次安倍政権となり、教育再生実行会議の提言が出され、中央教育審議会の答申がなされたところ。ご承知のとおり、答申は、合議制の教育委員会の性格を大きく改める内容になっている。新制度については今後通常国会で審議されることになるが、与党内での反対もあり、一筋縄ではいかない見込み。本日から、自民党と公明党による与党内協議が始まっており、2 月中に結論を出すとのことだが、首長の関与をどこまで認めるのかということが議論の中心になってくると思う。
- いずれにしても、教育委員会制度については政治問題になってきているので、どういう決着になるかはわからない。したがって、今、どんな制度になるかということのを思い悩んでも仕方がない。我々が傾注すべきは、どんな制度になったとしても、良い教育行政を実施するにはどうすべきか、ということを考えていくこと。

- 皆さんも苦労されていると思うが、教育委員会には予算編成権がない。新しい施策を打ち出すには、首長に了解してもらわなければならない。そのためには、日頃から首長との連携を密にしながら、首長の求めるものを把握することが必要。ただし、首長の求めるもの全てはできない。教育行政として一線を越えてはいけない部分もあるため、教育委員会が主体的に判断すべき。バランスをどう取るかが苦労する点であり、大切なこと。目指すべき方向性を首長と共有しながら、実行の部分で教育委員会が主体的に工夫していくことが大切。
- 従来は、県がこういったことをやりますよと言うことについて、市町村も予算を付けざるを得ないといった時代だったが、今はそういう時代ではない。一方で、本来は市町村がやるべきだが、市町村から要望があったから県単独で予算を付けるということは財政事情等の面でできなくなってきている。市町村の自治事務については市町村がしっかりと取り組み、県の自治事務については県がしっかりと取り組んでいくしかない。予算を確保していくためには、教育委員会が首長の考え方を把握しながら先回りして提案していくなど様々な工夫をしていかなければならない。
- 行政出身の職員は、教育の分野はよくわからないので教育の中身にはあまり口を出さないといった傾向があると思う。先般、両小野小学校に伺った際、地域の方々が「学校の先生は『風』の人である。我々地域の人間は『土』の人である。」という話をしていた。学校の先生は外から新しい風を吹き込んでくれて、いろんな刺激を与えてくれるが、数年経つとその地域を離れてしまう。それに対して地域の人間は一生その地域に住んでいる。しかし地域の間人だけではわからないことがたくさんある。したがって、『風』の人と『土』の人のコンビネーションが大事だということ。教育行政でも同じことが言える。教員出身の職員は、数年経つと学校現場に戻ったり、全県人事で他の地域に異動したりする一方で、行政出身の職員は、分野は変わってもその地域の行政からは離れない。『土』の人として、その地域をどうするのかということについて責任をもって考え、最後は責任を取らなければならない。そういった意味で、教育行政に関し大いにものを言い、大いに企画し発案していく責務があると思っている。
- 私は、地域に開かれた学校づくりをどんどん進めてください、と様々な場面をお願いしている。今までの学校教育は、教育のプロである教員だけでやればよいということで成り立っていた。それを対象にする教育行政も、プロとしての話だけで事が済んでいた。ところが、今求められる教育をしていくには、プロだけではなく様々な分野の専門家や地域の方々に協力していただきながら、地域の資源や外部の資源を使っていくことが求められている。教育行政についても同じであり、教育委員会が様々な地域の資源を掘り起こし、それを学校のニーズとマッチングさせるといった行政が求められている。この仕事は、外から来ている教員にとっては非常に難しい仕事だが、その市町村に長くいる行政職員にとってはいわば簡単にできる仕事。総合行政としての教育行政を高めていくことが求められている今、行政職員の役割はますます増してきている。
- 最後に、県教育委員会と市町村教育委員会が大きなベクトルは1つの方向で、アプローチの仕方をそれぞれに工夫しながら、長野県の教育行政が良くなるよう皆様とともに頑張ってもらいたい。

目次に
戻る

◆お問い合わせ◆

教育総務課企画係

TEL 026-235-7423

FAX 026-235-7487

Mail kyoiku@pref.nagano.lg.jp

「全国学力・学習状況調査」に関する長野県の分析結果及び それを受けての取組について 教学指導課

●長野県「全国学力・学習状況調査」分析委員会の報告書

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月24日（水）に4年ぶりの悉皆調査として実施されました。長野県教育委員会では、調査結果を様々な視点で分析し今後の取組につなげるために、本年度初めて、大学の教員や保護者、小中学校の学校長や教員から成る分析委員会を新たに設置しました。そこでは、教科に関する調査の問題ごとの詳細な分析に加え、特に今回課題の大きかった中学校を中心に、教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果を関連付けて分析し、改善の方向等が示されました。

特に、質問紙調査の回答も含めた長野県の分析結果については、次のような分析が行われました。

- 1 自分の考えや理由を言葉で記述して説明することに関して
- 2 補充的な学習指導に関して
- 3 家庭学習の内容や方法に関して
- 4 中学生の生活実態に関して
- 5 30人規模学級の効果に関して

また、市町村教育委員会の取組、学校の取組が紹介され、今後の改善に向けた取組について提言が行われました。

報告書の詳細については、長野県教育委員会のホームページからご覧ください。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/gyose/zenpan/tokei/gakuryoku/h24-02.html>

●調査結果を指導改善に生かすための取組

県教育委員会では、次のような取組を行いました。

★各校の教頭・研究主任等を対象にした研修会

各校で調査の結果を分析し、自校の学力に関する課題を明らかにするとともに、児童生徒の学力を向上させるために、各校で取り組む内容の決め出しと改善計画の作成

- ・県分析シートを用いての結果の分析、課題の見出し方の研修
- ・分析結果を基にした意見交換
- ・見出した課題を基に、各校での指導改善計画のための提案資料の作成

★市町村教委学力向上担当者会を対象にした研修会

市町村教育委員会における全国学力・学習状況調査の結果分析の仕方についての説明と、市町村教育委員会における学力向上の取組に関する施策に関する協議

- ・他県の市町村における取組についての紹介と意見交換
- ・分析シートを用いての分析と課題の見出し方の演習

★教職員用・保護者用リーフレットの作成

- ・分析委員会の報告を基に、授業改善、家庭学習等を視点に、実践の振り返りや今後の取組の参考としていただくためにリーフレットを作成し小中学校の全教職員に配布
- ・学校と家庭が連携して取り組みたい点についてリーフレットを作成し小中学校の保護者に配付

目次に
戻る

◆お問い合わせ◆

教学指導課 義務教育指導係

TEL : 026-235-7434

FAX : 026-235-7495

e-mail : kyogaku@pref.nagano.lg.jp



「里山再生プロジェクト7年間の歩み」

長野県小海高等学校

本校里山再生プロジェクトの取り組みは、「平成 25 年度長野県ふるさとの森林づくり賞」森林環境教育推進の部で県知事賞を受賞いたしました。研究成果を県庁において展示発表する機会を得て、1月 23 日(木)にプロジェクトのメンバー 7 名が本校のキャラクターパクムとともに発表を行いました。

【研究経過】

- H19 年度～
- ・小海高校創立 100 周年の記念事業として、佐久地方事務所林務課の支援・協力を得て学校林の整備を行った。
 - ・その後、「里山再生プロジェクト」として毎年学校林の整備を行い、1 年次に全員が総合的な学習の時間で森林や環境についての学習を行っている。
 - ・森林や環境に関する学習を更に深めるため、生徒の有志が継続的に調査研究に取り組んできた。
- H21～23 年度
- ・国のエネルギー環境教育情報センターよりエネルギー教育実践校の認定を受けて 3 年間学習を深めてきた。
- H24 年度
- ・木質バイオマス燃料の利用について地域へ紹介する活動を行った。
- H25 年度
- ・佐久地方事務所林務課の助言により長野県緑の基金の「緑と水の森林ファンド」事業の助成を受け、木質バイオマス利用の先進的な取組をしている北海道下川町を見学し、木材の多面的な活用について学んだ。

【主な研究成果】

- (1) 学校林整備を契機として、森林活用やエネルギーの学習に取り組み、先輩から後輩へ受け継ぐことができた。
- (2) 学校林にも多く植えられている、カラマツ等の針葉樹間伐材をバイオマス燃料として活用すれば、二酸化炭素排出量削減にも有効であり、地球温暖化抑制につながる事がわかった。
- (3) 木材としての販売だけではなく、高級フローリング材や木炭、防虫剤、アロマオイル等の新たな付加価値を見出し木材を余すことなく使うことにより、魅力的な成功につながることを学べた。
- (4) バイオマス燃料利用が地域に根付き、多様な木材活用が可能になれば、新たな産業や雇用が生まれ、少子化や過疎化に歯止めをかける一歩になる可能性があると考えた。
- (5) 研究成果を生かし、これからの森林活用への提言を行った。



【成果発表の様子】

これまでの研究成果について、展示内容を題材に紙芝居（ペーパークラフトシアター）やクイズ形式で発表しました。発表の大前提は、「山を守りたい、地域を守りたい、森林活用の新しい方向性を探りたい」の 3 本柱です。最初に行った紙芝居（ペーパークラフトシアター）は、以前に東

京大学大学院農学生命科学研究科の酒井秀夫教授、鮫島正浩教授に講義をしていただき、スウェーデンやオーストリアの先進的な木質バイオマスエネルギー利用等について学んだ内容の発表です。

「身近な問題だから、子供から高齢の方まで皆にわかってもらえる紙芝居のような発表にしたい！」という生徒たちの思いにより、ペーパークラフトシアターという形での発表を工夫しました。パクムもメンバーに加わり、楽しくわかりやすくお伝えできたと思います。

発表の後半は、本年度訪問した北海道下川町の取り組みをクイズで紹介しました。森林組合とともに林業をゼロから基幹産業として育て、バイオマスでエネルギーを自給し、将来的には自然エネルギーの基地として自立することを目指す下川町。この町の「山を守り、地域を守り、森林活用の新しい方向性を探る」ための様々な工夫について、地元信州でも実現できないだろうかという願いを込めつつ紹介しました。

多くの方々にお集まりいただき、プロジェクトのメンバーと会場の皆さんが一体となって楽しく発表させていただきました。今後とも更にプロジェクトの活動を充実させていきたいと思っています。



小海高校のキャラクター パクム

- ◆ 平成 24 年度に小海高校の生徒会が生活会活動を盛り上げ、地域貢献活動にも活用する目的で学校のイメージキャラクターを作成しました。
- ◆ 校章にも描かれているリンドウをかたどったポンチョに緑色の葉っぱの頭を持つ妖精。名前の「パクム」は学校の標高 896 メートルから命名されました。
- ◆ 平成 25 年 11 月に同窓会、PTA、小海町の援助により着ぐるみが作製され、生徒会活動でパクムを活用して学校のPRを行うとともに、小海町をはじめとする南佐久地域の行事に参加するなど、地域振興のための活動を行っています。



[目次に戻る](#)

◆お問い合わせ◆

長野県小海高等学校

TEL 0267-92-2063 (代表)

FAX 0267-91-2007

Mail koumi-hs@pref.nagano.lg.jp

「上野の森の小さな芸術家たち展」について

長野県若槻養護学校

○「上野の森の小さな芸術家たち展」とは

「表現活動を通して自分の心の内を素直に表出できるようにしてほしい」「子どもたちが努力している姿を作品を通じて多くの人に見てほしい」そんな願いのもと、本校児童生徒の図工美術作品展を、八十二文化財団様のご厚意で「ギャラリープラザ長野」をお借りし、平成15年度から毎年開催しています。



今年度の様子

○一人一人の思いのつまった作品たち



思いを込めて制作

本校は、病弱の特別支援学校として、病気や障害により入院・通院しながら学ぶ 70人あまりの児童生徒が在籍しています。

「病弱部」の児童生徒たちは、図工や美術などの時間を使って制作に励む中で、自分の興味のあることをつきつめる姿、今ある自分を見つめて絵や言葉に託す姿、今できることに一生懸命打ち込む姿が作品となりました。

重心病棟に入院する「のぞみ部」「訪問教育部」の児童生徒たちは、身体を精一杯動かして自分を表現したり、好きな活動や感触遊びをしながら制作を楽しんだり、一筆一筆にじっくり時間をかけて作品を創り上げたりと、それぞれの今ある姿が形となりました。

○今年度の作品展を終えて

第11回となる今年度は、1月23日～28日に開催し、300人余りの方に足を運んでいただきました。絵画を中心に、粘土などの立体造形を含め、約100点を展示。立派なギャラリーの中に額装された絵画が並び、立体作品が目をはく形で飾られると、日ごろ見慣れた作品たちがいっそう輝いて見え、児童生徒たちも自分たちの作品に誇らしげでした。また、ご来場いただいた方々からたくさんの感想を寄せていただき、自信と今後の励みになりました。

一つ一つの作品には、たくさんの物語があります。そんな思いを少しでも感じていただける展覧会でありたいと思います。来年も同じ時期に開催いたしますので、ぜひ足をお運びいただき、児童生徒たちの姿に触れていただけたらと思います。



訪問教育部の共同制作

目次に
戻る

◆お問い合わせ◆

若槻養護学校

Tel 026-295-5060

Fax 026-251-3175

E-mail wakayou@nagano-c.ed.jp

イベント情報・お知らせ

★長野県立高等学校通信制課程 4月入学生を募集します★

長野西高等学校と松本筑摩高等学校では、4月からの通信制課程の生徒を募集します。

志願資格は、中学校を卒業した方又はこの春卒業見込みの方で、高等学校を退学した方の編入もできます。いずれも学力検査は行いません。

入学願書の受付は3月31日（月）まで。

詳しくは、長野西高等学校又は松本筑摩高等学校まで、直接お問い合わせください。

○ 入学願書の受付期間

平成26年3月3日（月）～ 3月31日（月） 午後5時まで

○ お問い合わせ先

- ・長野西高等学校通信制（東北信にお住まいの方）
電話 026-234-2262
- ・松本筑摩高等学校通信制（中南信にお住まいの方）
電話 0263-47-1526

■ お問い合わせ
高校教育課 管理係
TEL : 026-235-7430
FAX : 026-235-7488
E-mail : koko@pref.nagano.lg.jp

★長野県道徳教育振興会議の委員を公募します★

長野県教育委員会では、長野県道徳教育振興会議の委員を募集します。

長野県道徳教育振興会議では、長野県内の学校や家庭、地域への道徳教育の涵養について審議します。

任期は、平成26年4月1日から、平成27年3月31日までです。

応募できるのは、県内にお住いの満20歳以上の方です。

応募の期間は、3月3日（月）～3月17日（月）です。

応募方法など詳しくは、県教育委員会事務局教学指導課義務教育指導係までお問い合わせください。

[目次に
戻る](#)

■ お問い合わせ
教学指導課義務教育指導係
TEL : 026-235-7434
FAX : 026-235-7495
E-mail : kyogaku@pref.nagano.lg.jp

◆[新しい信州ブランド戦略の「キャッチフレーズ&ロゴマーク」と「スローガン」をご活用ください。](#)

◆[「長野県中学生期のスポーツ活動指針」を策定しました。](#)

あとかき

メールマガジン3月号をお届けします。

ソチオリンピックの熱い盛り上がりには反比例するかのよう、寒い日々が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。

特に最近の雪の量はすさまじく、大変な思いをされた方もいらっしゃると思います。

ゲリラ豪雨が雪になったらこんな感じなのでしょうか。

私の家周辺でも、雪を片付けるそばから積もってしまいました。雪かきは冬のカロリー消費を促進する重要な運動なのですが、さすがに限度がある！と思ったのは私だけではないはず。

話は変わりますが、「かちわたり」という言葉をご存知でしょうか。

辞書に載っている意味とは違うのですが、私の出身地方では「凍った雪の上を歩く」というような意味で使います。「今日の朝は“かちわたり”ができた」というように。

田んぼ等に雪が積もり、少し溶けた後に寒くなると、積もった雪の表面が硬く凍って沈まずにその上を歩ける状態になります。そうすると田んぼも畑も突っ切り、大幅に時間を短縮して一直線に通勤・通学できたりします。

近年は昔ほどはできないようですが、「“かちわたり”できる場合とそうでない場合とでは、通勤時間が10分違う」という人もいます。

雪が降るのも寒いのも、悪いことばかりではありません・・・が、やはり限度がありますね。

(か)

目次に
戻る